



野々市RC会報

第1835回例会会報

金沢国際ホテル

2018年1月24日(水曜日)

例会

- 開会点鐘
- ロータリーソング「我らの生業」

会長挨拶

■会長 石澤 康 様

こんばんは！

本日のお客様は多賀クリニック院長・多賀千之様です。

昨年の10月24日、ノーベル賞の大村智さんの打ち合わせで白山RCへメイクアップに行ってきました。その時の例会卓話が、小児科の多賀先生の「どうしたらやる気スイッチが入るか」という内容でした。

子供を育てる観点から考えて、大切なのは、まず母親が甘えさせてあげるという愛情を持つ事。それで子供は甘える。母親はまた甘えさせてあげる。そこから信頼関係が生まれるというのです。この信頼関係は、会社では上司と部下、また男女の仲でも同様だと気づかされました。

特に仕事では、まず信頼関係が無ければ、次のレベルにステップUPしていかないというのは理解しているつもりでしたが、35年間一緒に業務をしてきた部下に辞めてもらう時があり悩みました。相手と向き合い、どの程度の信頼関係を築き上げるかは、難しいところだと思います。

今回は「ボケてからも可愛がられる法」との内容にて卓話をさせていただきます。何か切実ですが、楽し気なお話だと思います。よろしく願いいたします。



本日のお客様

■多賀クリニック 院長 多賀千之（たが かずゆき）様



野々市RC会報

第1835回例会会報 金沢国際ホテル

2018年1月24日(水曜日)

表彰 伝達式

■柳生 好春 様

ロータリーリーダーシップ研究会パートⅢ修了書 贈呈

■「RLIに参加して」

RI2550地区（栃木）のRLIパートⅢに参加してきました。

2610地区でも昨年12/2にようやく第1回目を開催しました。ディスカッション形式でロータリーの事を勉強できるので、是非多くの方に参加して頂きたい。



幹事報告

■幹事 榎本いずみ 様

・来週の例会は半期決算報告と北陸財務局検査管理官 白崎公二（しらさき こうじ）様の卓話です。

委員会 報告

■広報委員会 松田真一 様

ロータリーの友1月号の見どころについて

■下原 学 様

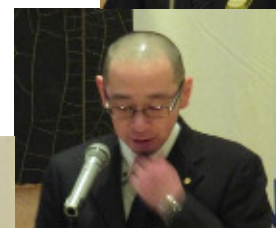
前回卓話者 ㈱ビー・エス・エイ（池高 明様）社の薪ストーブパンフレットご案内

■奉仕プロジェクト委員会 齊藤邦博 様

1/21(日)クラブ職業奉仕委員長会議 出席報告
テキスト『ロータリーの歴史探訪 シェルドンの実像を追って』ご紹介

■松井 満 様

建物診断のパンフレットご案内





野々市RC会報

第1835回例会会報

金沢国際ホテル

2018年1月24日(水曜日)

卓話

以前に勤務していた病院の老人施設職員より、誰からも好かれて可愛がられる認知症のおばあちゃんがいると聞き、実際に会いに行ったところ、些細なことでも誰に対しても常に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える人であった。その方はもともと苦勞人で、認知症になる前より家族でも誰に対しても「ありがとう」と口癖のように言う人だったようです。そこでふと、自分が高齢者になり認知症になっても「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられる自信がないことに気づき、癖になるくらいに普段から「ありがとう」を言える人間になろうと決意したそうです。



早速、クリニックの職員と一緒に「ありがとう週間」と題し、なんでも良いから1週間「ありがとう」と言う回数を増やす作戦を開始しました。すると自分の周囲にいろいろな変化が現れ、「ありがとうの7原則」を発見したそうです。

「ありがとうは人を動かす力がある」

普段はお手伝いなどしてくれない自分の子どもに対し、ちょっとしたことでも「ありがとう」ということで、子供たちが喜んでお手伝いをしてくれるようになったそうです。

「ありがとうとすみませんは違う」

日本人はどうしても相手の行為に対し「申し訳ない」という謙虚な気持ちが先に出てしまいがちだが、「ありがとう」で返したほうが、言われた相手は嬉しいことに気づいたそうです。

「ありがとうは後出しでも効果あり」

その場ではタイミングがなくて言えなくても、後日「あの時はありがとうね」というだけで時間が経過していても感謝の気持ちは伝えられる。

「ありがとうにはハードルがある」

みなさんの人生で大切な人は誰ですか？という質問をした際に、皆さんは家族や恋人を思い浮かべるでしょう。ですが、その大事な人にあまり「ありがとう」を言っていないことに気づいたそうです。同じ行為、例えばテーブルのお塩をとってもらう際に、赤の他人に取ってもらったら「ありがとう」とお礼を言うと思いますが、家族に取ってもらった場合は「ありがとう」を言っていない方が多いのではないのでしょうか？それは「ありがとう」のハードルを人によって自分で決めているのではないか。自分自身でそのハードルを下げる努力が必要である。

「ありがとうは伝染する」

自宅で「ありがとう週間」を行っていた子供たちが、保育園で「ありがとう」を連呼すること



野々市RC会報

第1835回例会会報

金沢国際ホテル

2018年1月24日(水曜日)

卓話

で保育園内でブームになっていたそうです。子供たちは大人よりありがとうのハードルが低いため、瞬間に伝染していったようです。

「ありがとうは言われるのも言うのも嬉しい」

ありがとうと言われて気分を悪くする人はいません。ですが、「ありがとう」という方も実は気持ちが良いのです。

「ありがとうのハードルは一旦下がると上がらない」

ありがとう週間が終わっても、それがお互いに心地よく、癖になってしまうと意識しなくても常に「ありがとう」が言えるようになる。

まずは「ありがとう」のハードルを下げ、大事な人にご常に感謝の気持ちを伝え、「ありがとう」が口癖になるまで言い続けましょう。そして将来、介護していただく人達に可愛がられるような認知症老人になりましょう。

今回は大変興味深いお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。

ニコニコボックス

■西村 信夫 様

卓上の花：ガーベラ 花言葉：神秘

卓上の花ご購入者：石澤さん、織田さん、下原さん、新保さん

石澤 多賀クリニック院長 多賀千之様、何時も日常の根幹的な内容で考えさせられます。卓話ありがとうございました。

榎本 多賀先生、本日は猛吹雪の中ありがとうございます。楽しみにしておりました。

下原 多賀院長、本日はお忙しいなか卓話をありがとうございました。

宮森 多賀クリニック院長 多賀千之様ようこそお越しいただきありがとうございます。
松井、柳川、齊藤

本日の収入額 11,000 円 累計 633,469 円

■閉会点鐘

カメラ：矢原さん、記録：柳川さん

お問い合わせ先

野々市ロータリークラブ

〒921-8821 野々市市白山町8番15号 TEL:076-294-1232 FAX:076-294-1522 E-mail:jimu@nonoichi-rc.jp